

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：現代社会学部 名前：石毛 弓 作成日：2026年3月3日

1. 教育の責任

大手前大学の「建学の精神」、「教育目的」、「使命」、およびディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに則り、学生が自らの人生を豊かにすることができる教育の提供を目標とする。また現代社会学部の「国内外の社会現象を教育研究の対象とし、現代社会の諸課題を発見・理解できる基礎力を備え、社会で活躍できる人材」を育成するというカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の教育実践をめざす。これらを自らの教育の責任とみなす。

- ・自らの課題（イシュー）を探究し、言語化できる力
- ・収集した情報を適切に関連づけ、論理的にアウトプットできる力
- ・自らの課題（イシュー）と社会を関連づけ、表現できる力

【2025年度担当科目】

- ・初年次教育：キャリアデザインⅢ、Ⅳ
- ・専門分野：哲学、哲学入門、情報メディアと社会、ポピュラーカルチャー研究、哲学と社会、倫理学、ゼミナール
- ・ファシリテーター育成：ファシリテーター養成演習Ⅰ、Ⅱ

2. 教育の理念

現代社会では、グローバル化や情報技術の進展等による価値観の多様化が顕著になっている。この状況は、自分とは異なる文化や背景にふれ理解を深めることができるというメリットとともに、ロールモデルの欠如や社会情勢の見通しの立たなさなどさまざまな不安も生んでいる。こういった複雑な状況を生き抜くために、自分自身の価値観を確認し他者に話すことができるようになることは、大学生として重要な課題であるとする。自ら情報を収集し、批判的に考え、判断を下し、その責任を自覚することができる学生の育成に努める。

3. 教育の方法

●思考の言語化

自分の考えを言語化することは、下記の項目において重要な役割を果たす。

- ・思考の整理：自分の考えを言語化することで、頭の中にある思いや要求を整理し、明確化することができる。また、言語化できない部分について思いをめぐらすことができる。
- ・論理的思考力の育成：自分の考えを整理して他者にわかるように話すこと、また他者の考えを理解することは、論理的思考力および批判的思考力の育成につながる。
- ・自己理解の促進：自分の考えをことばにして振り返ることで、自身の価値観や理念を再確認することができる。自己理解を深めることにつながる。
- ・具体的な手法：レポートやリフレクションを書くこと、また書く準備をすることは、思考を言語化する訓練になる。準備には、資料を探して読み解く力も入る。自分の考えを書き表せるようになることは、どの分野においても重要な力となる。

●グループワーク

学生同士で行うディスカッションやプレゼンテーション、ワークショップなどのグループワークは、多様な価値観を育成するために効果的である。

- ・異なる視点の共有：自分の意見や考えを共有し、他者の視点を理解する機会を得る。他の学生の考えを知ることで自身の視野を広げることができる。
- ・コミュニケーション能力の向上：自分の考えをことばにすることで、他者に対して効果的に伝える能力を向上させる。グループワークを練習の場として、他者に自分の意見を明晰に述べる能力を向上させる。
- ・問題解決力の向上：人と話し合うことで、一人では得られない視点を得たり、思いがけないアイデアをもらったりすることができる。他者と共同しての問題解決力を磨くことができる。

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：現代社会学部 名前：石毛 弓 作成日：2026年3月3日

●問題発見能力

「言語化」と「グループワーク」を通して、問題発見能力を開発する。潜在的な課題を認識したり、課題について創造的なアプローチを示したりすることで、独自の視点でものごとを解釈し解決に至るひらめきを得ることができるようになる。人や課題を「みる」力、質問する力、フィードバックを渡したりもらったりする力などを育成し、多角的な視点をもつことにつなげる。

4. 教育の成果

大学入学当初は、思考を論理的に表現することが苦手な学生が多く存在する。しかし、言語化を積み重ねることによって、次のような効果が得られると考えられる。これらは、授業の課題などによって確認することができる。

- ・リフレクション力の向上：授業や学期のふり返りを書く。1回目と15回目では、文章の内容や量に変化がみられ、より深い内容を書くことができるようになる。
- ・レポート作成能力の向上：書くこととフィードバックをくり返すことで、形式面でも内容面でもより質の高いレポートを完成させることができるようになる。
- ・コミュニケーション能力の向上：「他者と関わろうとすること」、「自分の考えを伝えること」、「他者の考えを理解すること」、「話し合いの内容を論理的にまとめること」などの力が身につく。

5. 改善への努力と今後の目標

あつかう分野の問題で、抽象的な内容が多くなる。そのため理解したり想像したりすることが難しいケースが生じることがある。具体的な例や視覚教材を使うことで、理解をより深めることができるよう工夫している。今後、さらにフィードバックやコミュニケーション、質疑応答などをを用いることで、よりわかりやすく興味をもつことができる授業を設計するよう努める。

【添付資料】

- ・シラバス（大学のホームページを参照）
- ・『レポートの書き方』（書く能力の教材として活用。el-Campusを参照）